

基本計画

後期基本計画
2026年度～2030年度

基本計画の見方

「基本計画」は、「基本構想」に示した“まちづくりの体系”に基づく“まちづくり分野”ごとの構成になっています。

“まちづくり分野”ごとの「基本計画」の見方については、次のとおりです。

まちづくり分野を示しています。

基本目標

ビジョンを実現するための目標とその達成に向けた方向性を示すとともに、「戦略プロジェクト（総合戦略）」と関連する目標については、戦略のアイコンを示しています。

関連するSDGsを示しています。

基本政策 1 誰もが安心して安全に暮らせるふるさと
方向性① 安心して暮らせるまちへ（保健・福祉）

1 地域福祉の充実

関連するSDGs

○ ビジョン ○

誰もが地域で支え合い、安心して暮らせるまちづくり

住民一人ひとりがお互いに関心を持ち、気軽に支え合い助け合うようなつながりある地域共生社会の実現をめざします。複雑化・多様化する課題に対しては、行政と住民、関係団体が連携し、声をあげやすく、支えやすい地域を育てていきます。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆地域福祉を推進するために、多様な関係機関や地域団体と連携・協働していく必要がある。
- ◆相談内容の複雑化・多様化により、個人情報保護等の観点から関係機関での連携が困難なケースが増加している。
- ◆8050問題をはじめとする複合的課題への対応や様々な分野の支援機関との連携体制の強化が求められている。
- ◆民生委員・児童委員、ボランティアの高齢化や担い手不足が進んでおり、相談ごとを一人で抱え込む負担の軽減と、地域ぐるみの支援体制づくりが必要である。
- ◆地域団体の活動継続を支える支援が必要であり、子育て支援や居場所の運営等を担う住民主体の活動の支援体制が求められている。
- ◆孤独・孤立の課題が顕在化しており、関係機関や住民、団体等が連携して、困ったときに声をあげられる・声をかけられる地域づくりが求められている。

○ 前期計画期間中の取組 ○

令和6年（2024年）3月に地域福祉計画を策定したほか、包括的な支援体制の整備における多機関協働を進めるため、福祉の支援機能を集約した播磨町総合福祉センターの運営を開始しました。また、地域での支え合いを促進するため、民間団体・住民団体との協働や地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業の指定を受け、孤独・孤立対策の啓発を進めたほか、子どもから高齢者までの多世代にわたる居場所づくりも推進し、誰一人取り残されないまちづくりに取り組んできました。

○ 基本目標 ○

目標1 戦略3 包括的・総合的相談支援体制の充実を図る
複雑化・多様化した住民課題に的確に対応するため、播磨町総合福祉センターを中心に相談支援機関との連携体制の充実を図り、誰もが安心して相談できる包括的支援体制の充実を図ります。

目標2 戦略3 住民相互の助け合いを推進する
誰もが地域で安心して生活するために、住民参加による地域での見守りや支え合いの仕組みづくりを各種団体や社会福祉協議会と共に引き続き推進します。また、民生委員・児童委員など、地域における福祉の担い手の確保に向けた支援を強化します。

目標3 権利擁護支援体制の充実を図る
判断能力に不安のある高齢者や障がいのある人の権利を守るため、播磨町成年後見センターを中心に地域連携ネットワークを推進し、成年後見の利用促進のみならず必要な支援が受けられるように、権利擁護支援体制を整備します。

目標4 戦略3 孤独・孤立対策を通じた分野をまたぐ連携体制を強化する
孤独・孤立の状態から問題が複雑化することを防ぐため、播磨町孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの活用による、分野をまたぐ連携体制のもと、必要な場合はアウトリーチをする体制の強化を図ります。

○ 分野における住民満足度 ○

地域での支え合いの満足度

基準値	R3	R4	R5	R6	後期基準値	目標 (R12)
	3.1	3.1	3.2	3.1	3.2	UP

○ 関連計画 ○

- 播磨町地域福祉計画
- はりまこども・若者みらいプロジェクト（播磨町こども計画）
- 播磨町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画
- 播磨町障害者計画
- 播磨町障害福祉計画・播磨町障害児福祉計画
- はりま健康プラン（健康増進計画、食育推進計画、自殺対策計画）
- 播磨町成年後見制度利用促進基本計画
- 播磨町再犯防止推進計画

ビジョン

まちづくり分野のめざすべきビジョン（将来像）と施策展開の方向性について示しています。また、“現状の問題・課題”について整理しています。

分野における住民満足度

今後の取組を通じて住民満足度を向上させることを目標に、アンケート結果に基づく現状の満足度を示しています。

関連計画

まちづくり分野に関連する主な個別計画を示しています。

基本政策

1

誰もが安心して
安全に暮らせるふるさと

方向性① 安心して暮らせるまちへ(保健・福祉)

方向性② 安全に暮らせるまちへ(防災・防犯)

1 地域福祉の充実

○ ビジョン ○

誰もが地域で支え合い、 安心して暮らせるまちづくり

住民一人ひとりがお互いに関心を持ち、気軽に支え合い助け合うようなつながりある地域共生社会の実現をめざします。複雑化・多様化する課題に対しては、行政と住民、関係団体が連携し、声をあげやすく、支えやすい地域を育てていきます。

総合福祉センター前



○ 前期計画期間中の取組 ○

令和6年（2024年）3月に地域福祉計画を策定したほか、包括的な支援体制の整備における多機関協働を進めるため、福祉的支援機能を集約した播磨町総合福祉センターの運営を開始しました。また、地域での支え合いを促進するため、民間団体・住民団体との協働や地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業の指定を受け、孤独・孤立対策の啓発を進めたほか、子どもから高齢者までの多世代にわたる居場所づくりも推進し、誰一人取り残されないまちづくりに取り組んできました。



○ 現状の問題・課題 ○

- ◆地域福祉を推進するために、多様な関係機関や地域団体と連携・協働していく必要がある。
- ◆相談内容の複雑化・多様化により、個人情報保護等の観点から関係機関での連携が困難なケースが増加している。
- ◆8050問題をはじめとする複合的課題への対応や様々な分野の支援機関との連携体制の強化が求められている。
- ◆民生委員・児童委員、ボランティアの高齢化や担い手不足が進んでおり、相談ごとを一人で抱え込む負担の軽減と、地域ぐるみの支援体制づくりが必要である。
- ◆地域団体の活動継続を支える支援が必要であり、子育て支援や居場所の運営等を担う住民主体の活動の支援体制が求められている。
- ◆孤独・孤立の課題が顕在化しており、関係機関や住民、団体等が連携して、困ったときに声をあげられる・声をかけられる地域づくりが求められている。

関連する SDGs



基本目標

目標 1 戦略 3 包括的・総合的相談支援体制の充実を図る

複雑化・多様化した住民課題に的確に対応するため、播磨町総合福祉センターを中心に相談支援機関との連携体制の充実を図り、誰もが安心して相談できる包括的支援体制の充実を図ります。

目標 2 戦略 3 住民相互の助け合いを推進する

誰もが地域で安心して生活するために、住民参加による地域での見守りや支え合いの仕組みづくりを各種団体や社会福祉協議会と共に引き続き推進します。また、民生委員・児童委員など、地域における福祉の担い手の確保へ向けた支援を強化します。

目標 3 権利擁護支援体制の充実を図る

判断能力に不安のある高齢者や障がいのある人の権利を守るため、播磨町成年後見センターを中心に地域連携ネットワークを推進し、成年後見の利用促進のみならず必要な支援が受けられるように、権利擁護支援体制を整備します。

目標 4 戦略 3 孤独・孤立対策を通じた分野をまたぐ連携体制を強化する

孤独・孤立の状態から問題が複雑化することを防ぐため、播磨町孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの活用による、分野をまたぐ連携体制のもと、必要な場合はアウトリーチをする体制の強化を図ります。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町地域福祉計画
- 播磨町障害福祉計画・播磨町障害児福祉計画
- はりま こども・若者みらいプロジェクト
(播磨町こども計画)
- はりま健康プラン
(健康増進計画・食育推進計画・自殺対策計画)
- 播磨町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画
- 播磨町成年後見制度利用促進基本計画
- 播磨町障害者計画
- 播磨町再犯防止推進計画

2 健康づくりの推進と 地域医療体制の充実

○ ビジョン ○

いきいきとみんなで健康に 過ごせるまちづくり

住民一人ひとりが自身の健康状態に応じた健康づくりに取り組むことで、心身共に健康に過ごせるまちづくりをめざすとともに、いつでも安心して医療を受けることができるよう、地域医療体制の充実に努めます。

フッ化物洗口



○ 前期計画期間中の取組 ○

若い世代の健康管理を促進するため、基本健康診査の対象年齢引き下げや乳がん個別検診の受診体制の構築、歯周病検診の対象者拡充・フッ化物洗口事業の開始、アウトリーチ型の健康教育の実施など、生活習慣病予防や健康づくりを進めてきたほか、男性HPVワクチン等の任意予防接種の費用を助成し、積極的に疾病予防に関する取組も進めてきました。また、兵庫県立大学と連携し、統計データの分析により、がん検診受診率向上のための戦略を検討しています。地域医療の維持については、かかりつけ医の周知や夜間・休日の救急医療体制の維持に努めるとともに、感染予防対策・物価高騰対策として医療機関等への助成金支給なども行いました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆平均寿命と健康寿命が県と比較して短い。
- ◆特定健診やがん検診ともに、働き盛り世代の受診率が低く、健康への意識が低いことがうかがえる。
- ◆新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症のような新興感染症が発生した場合、迅速な対応が必要である。
- ◆糖尿病や脂質異常症をはじめとする生活習慣病の割合が高く、この傾向は若い世代からみられている。
- ◆高齢者が抱える多様な健康課題に対応し、住み慣れた地域で自立した生活ができる期間を延伸、生活の質の維持向上を図る必要がある。
- ◆かかりつけ医を持っていない人等に対する情報提供方法を検討する必要がある。
- ◆心身の健康を増進する健全な食生活を実践することができるよう、特に若い世代に対する食育を推進する必要がある。

関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 戦略 3 健康寿命を延ばす

すべての世代の健康への意識や関心を高め、健康的な生活習慣を習得するとともに、住民が主体的に楽しく健康づくりに取り組めるような工夫を図ることで、健康寿命の延伸に努めます。また、健(検)診をはじめとする保健事業を展開するにあたり、データ分析等をもとにした効果的な手法を取り入れます。

目標 2 戦略 3 地域医療の体制を維持する

かかりつけ医を持つことの重要性を周知し、適切な時期に適切な医療につながることで、現状の地域医療体制の維持に努めます。休日や夜間の救急医療についても関係機関と連携しながら、救急医療体制の維持に努めます。



子宮がんを防ぐ（講演会）

● 分野における住民満足度 ●

	基準値	R3	R4	R5	R6	後期基準値	目標 R12
健康づくり・ 地域医療の満足度	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	UP ✓

● 関連計画 ●

- はりま健康プラン（健康増進計画・食育推進計画・自殺対策計画）
- 播磨町特定健康診査等実施計画
- 播磨町国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）

3 子育て支援の充実

ビジョン

地域全体で安心して 子育てができるまちづくり

子育て世代を地域全体で見守り・支援することにより、子育てへの不安が軽減され、安心して子育てができるまちをめざします。保育・教育・福祉の関係機関が一体となって、妊娠期から学齢期まで切れ目のない支援を提供し、子どもと家庭が地域につながる環境を整えます。



前期計画期間中の取組

妊娠期から子育て期までの一貫した支援として、家庭訪問等を通じた伴走型支援の実施や妊産婦応援タクシー券の交付、産後ケアの充実を図るとともに、こども医療費の助成を高校生世代まで拡充しました。また、子育て支援センターや学童保育所を活用した育児負担軽減や多世代交流の推進、こども支援センターの設置や関係機関との連携による児童虐待防止のための体制強化を図りました。さらに、町立幼稚園1園の認定こども園への移行、学童保育の充実、保育士確保のための支援のほか、民間保育所の増築・新設への補助及び播磨幼稚園園庭拡張工事の実施等を通じて、保育施設やサービスの維持・拡充に取り組んできました。

現状の問題・課題

- ◆少子化の進行、共働き世帯の増加、核家族化など家族形態の変化、地域とのつながりの希薄化などにより、孤立した子育て世帯への支援が必要となっている。
- ◆生活困窮、児童虐待など支援を必要とする家庭が増加している。
- ◆子育て世代が増加し、ニーズが高まっている一方で、保育士、保健師、助産師等の子育てに関わる専門職の人員が不足しているとともに、保育施設運営に必要な面積の土地の確保も困難となっている。
- ◆子どもたちにとって家庭と学校以外の第三の居場所として、安心して過ごせる居場所のニーズが高まっており、またその居場所を運営するための活動支援が求められている。



関連する SDGs



基本目標

目標 1 戦略 2 安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整える

妊娠早期から継続して支援を必要とする妊婦等を把握し、早期から切れ目なく支援することで安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整備します。

目標 2 戦略 2 育児負担・育児不安の軽減、世代間交流の促進を図る

子育て支援センターや学童保育所などの各施設において、子育ての孤立化の防止、育児負担の軽減を図ります。また、各施設において積極的に地域との連携を図り、子どもと多世代との交流を促進します。

目標 3 相談体制の充実を図る

児童虐待の発生を未然に防ぐために、子育てに関して相談しやすい環境をつくるとともに、県こども家庭センター（児童相談所）など関係機関との連携を図り、充実した支援を実施します。また、播磨町こども家庭センターの開設に向けて、人員の確保や包括的な支援体制の構築に努めます。

目標 4 戦略 2 保育の充実を図る

保育施設で実施する延長保育事業など多様な保育サービス、不足する保育士を確保するための取組に対する支援や補助を行うとともに、保育に関する施設や事業の利用希望者等が円滑に利用できるよう支援を行います。また、待機児童の解消に向けて、保育施設の新設を含む保育の受け皿の充実や町立幼稚園のあり方等について、播磨町子育て支援策検討会議等における有識者や関係者の意見を踏まえながら検討を進めます。

分野における住民満足度



関連計画

- はりま こども・若者みらいプロジェクト（播磨町こども計画）
- はりま健康プラン（健康増進計画・食育推進計画・自殺対策計画）

4 高齢者福祉の充実

○ ビジョン ○

高齢者がいきいきと地域で暮らしていけるまちづくり

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が一体的に提供できる「地域包括ケアシステム」の強化を図ります。また、見守りや居場所づくりに加え、外出が困難な高齢者へのアウトリーチ支援を推進し、誰もが孤立せずに地域で尊厳ある生活を送れる環境づくりをめざします。

健康教室



○ 前期計画期間中の取組 ○

高齢者の健康寿命延伸と居場所づくりを推進するため、健康づくり体操や介護予防講座の充実、生活支援コーディネーターの配置による地域の支え合い活動を進めるとともに、認知症サポーター養成講座や啓発活動を実施し、地域での理解促進に取り組んできました。また、見守りタグや認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施による見守り体制の強化を図り、高齢者補聴器購入費の助成のほか、高齢者タクシー券の拡充による移動支援や、高齢者安全運転サポート車購入等支援により、高齢者が安心して外出できる環境づくりを進めてきました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆医療・介護・介護予防・住まい・生活支援など、地域包括ケアシステムを構成する各分野において、取組を充実・強化する必要がある。
- ◆医療や介護を必要とする高齢者が増加している一方、介護人材等の支援が不足している。
- ◆居場所づくりの推進とともに、居場所まで出てこられない高齢者へのアウトリーチの方法を検討する必要がある。
- ◆少子高齢化、核家族化が進み、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯など、見守りや日常生活上の支援が必要な高齢者が増加している。
- ◆高齢化の進行とともに、認知症高齢者が増加している。

関連する SDGs



基本目標

目標 1 介護予防活動と高齢者の居場所づくりを推進する

住民主体の健康づくり体操など健康教室の充実により、介護予防に取り組む人を増やし、高齢者の健康寿命の延伸を図るとともに、引き続き居場所づくりを推進します。

目標 2 認知症高齢者の相談・支援体制を強化する

認知症高齢者に対する身近な地域での見守り・支援活動をさらに促進するため、認知症サポーター養成講座などの開催により、認知症の正しい知識・理解の普及啓発に努めます。また、地域での見守りネットワークの体制を強化することで、認知症の人の早期発見・早期支援を促進します。

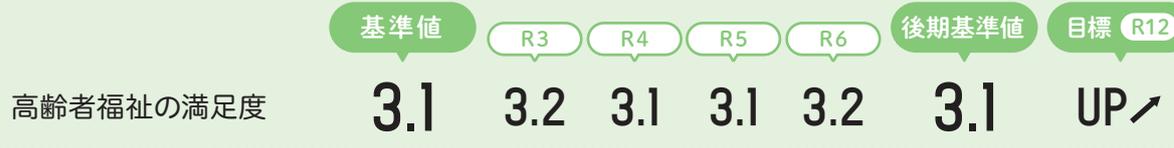
目標 3 高齢者の見守り体制の強化・推進を行う

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで続けることができるように、地域で助け合う「地域包括ケアシステム」の構築をめざします。地域での支え合いを推進するとともに、医療・介護・福祉関係者との連携を強化し、一体的に提供できる体制づくりを推進します。

目標 4 高齢者の生きがいづくりを推進する

高齢者自身が地域社会の中で自らの経験や知識を活かし、積極的な役割を果たしていけるよう、ボランティア活動など住民主体の生きがいづくりを推進します。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画

5 障がい者福祉の充実

○ ビジョン ○

誰もが共に支え合い、 暮らす共生のまちづくり

障がいのある人が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し、地域で支え合いながら共に生きることのできる環境づくりを行います。

児童発達支援センター



○ 前期計画期間中の取組 ○

子どもから大人まで障がいのある人に対する切れ目のない相談支援体制を強化するため、播磨町総合福祉センター内に播磨町総合相談窓口・障害者基幹相談支援センターと児童発達支援センターを設けることで相談窓口を一元化しました。就労支援では、重度障がい者等に対して通勤や職場等における支援体制を整備し就労機会を拡大しました。また、見守りタグ等の実施による見守り体制の強化や合理的配慮の提供義務化の周知、重度心身障害者福祉タクシー券による移動支援の充実、医療機関との連携強化を通じた医療的ケア児の受け入れなど、障がいの有無によって分け隔てられない共生のまちづくりを進めてきました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆障がいに対する理解促進を図る必要がある。
- ◆障がいのある人の重度化・高齢化、「親亡き後」の支援体制づくりが求められている。
- ◆障がいのある人が抱える生活課題や支援ニーズが複雑化・多様化している。
- ◆障がいのある人の地域社会への参加の促進を図る必要がある。
- ◆障がいのある人への虐待防止のための体制づくりが必要である。



関連する SDGs



基本目標

目標 1 戦略 2 相談体制の充実を図る

障害者基幹相談支援センターの相談体制の充実を図ることにより、障がいのある人や家族、支援者に寄り添った支援を行います。また、令和 8 年 (2026 年) 2 月に開設した児童発達支援センターを中心として、0 歳から 18 歳までの切れ目のない支援を行います。あわせて、本人や保護者にとってより伴走的な支援を行うことができるよう、本人の同意を得たうえで、関係機関と情報共有できる体制を構築します。

目標 2 雇用・就労の支援を行う

引き続き障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携し、一般企業への就労を支援するとともに、一般就労が困難な障がいのある人には、就労支援施設などの利用を促進し、就労機会の拡大を図ります。

目標 3 障がいのある人の地域社会への参加を促進する

障がいのある人の生活圏の拡大及び社会参加の促進を図ります。また、身近な地域で医療的ケア児とその保護者が支援を受けられる体制を推進します。

目標 4 障がいのある人を地域全体で支える体制づくりを行う

障がいのある人が住み慣れた地域で、できる限り自立と社会参加を果たしながら安全に暮らせるよう、地域生活支援拠点 (体制) の整備を行うとともに、緊急時の受け入れ体制の構築に努めます。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町障害者計画
- 播磨町障害福祉計画・播磨町障害児福祉計画

6 健全な保険制度の運営

○ ビジョン ○

健全かつ適正な 保険事業をめざすまちづくり

少子高齢化の進展に対応するため、持続可能な社会保障制度の確立に努めます。

わくわく出前講座



○ 前期計画期間中の取組 ○

適正な保険運営を進めるため、特定健診の周知啓発、受診勧奨や国保加入者へのがん検診無料クーポンの配布を実施し、早期発見・予防の体制整備に取り組んできました。また、わくわく出前講座を活用した社会保険制度の普及啓発や、介護保険料の納期変更による収納率向上に向けた徴収対策を進めてきました。さらに、介護ニーズの増加に対応するため、サービス提供事業所の整備や介護人材の確保に取り組みました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆後期高齢者の増加により介護給付費や医療費の増加が見込まれるため、重度化防止等の保険者機能の強化が必要となっている。
- ◆国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料の収納率を向上させるため、社会保険制度の理解に向けて継続した啓発活動を行う必要がある。



関連する SDGs



基本目標

目標 1 適正な保険運営を行う

健診・健康教室・個別指導等、健康寿命を延ばす働きかけを行うとともに、介護・医療給付の適正化に努め、保険者機能の強化を図り、安定的な国民健康保険事業の運営に努めます。

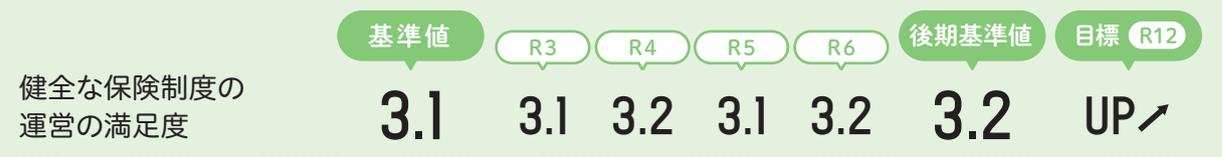
目標 2 持続可能な保険制度を確立させる

物価高騰の影響による被保険者の負担を考慮しつつも、住民に対して社会保険制度に関する知識の普及啓発を行うとともに、収納率を向上させ、財源確保に努めます。

目標 3 介護保険制度を安定的に運営する

2040年問題を見据えて、介護者の負担軽減や介護離職の防止など介護ニーズを把握し、適切な介護基盤の整備に努めます。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）
- 播磨町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画

1 消防・防災体制の強化

○ ビジョン ○

災害に強い 防災・減災のまちづくり

「自らの命は自らで守る」を基本理念に、住民・地域・行政がそれぞれの立場において、最大の力を発揮することで、防災・減災のまちをめざします。

総合防災訓練



○ 前期計画期間中の取組 ○

令和5年（2023年）から町全体で総合防災訓練を実施し、自主防災組織を中心とした避難所運営を進めてきました。また、避難や備蓄の重要性を認識してもらうことを目的として、研修や講座の開催、情報提供に努めたほか、小学5年生を対象とした防災教育を行うことで、子どもや教職員の防災意識向上に努めてきました。さらに、受援計画の策定やため池を活用した治水対策の実施、古宮漁港の護岸ゲートの設置を行ったほか、町内医療機関に医薬品等を備蓄することで防災体制の強化を図りました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆ 気象状況や社会要因の変化により、規模の大小を問わず、様々な災害等が毎年のように起きている。
- ◆ 公助に偏重しがちな防災意識を、住民による自助・互助・共助の意識づくりに変えていく必要がある。
- ◆ 研修や講座等により防災意識の向上を図っているが、自助の観点からも個人備蓄の啓発、研修に注力していく必要がある。
- ◆ 共に助け合うまちづくりの形成の中、自主防災組織の訓練・教育を推進するとともに、地域ごとの取組の活性化を図る必要がある。
- ◆ 災害時だけでなく、平時からライフライン事業者との連携を図る必要がある。
- ◆ 様々な災害に対応していく避難所の適正な運営を図るため、環境の整備や運営方法の検討をする必要がある。

関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 **戦略 3** **防災意識を高めるための啓発を推進する**

個々の備蓄の推進や情報収集手段の確保など防災意識を高める啓発として、自主防災組織の研修や出前講座を実施します。

目標 2 **戦略 3** **地域防災力を強化する**

播磨町総合防災訓練を実施し、自主防災組織だけでなく様々な団体に参加してもらうなど共助における地域の助け合いを図るとともに、訓練等に必要な支援・物品等の整備を進めることで地域防災力を強化します。また、災害時の要配慮者についての名簿受領や計画策定を地域や関係者と共に推進していきます。加えて、総合防災訓練と同時に職員に対する訓練も実施することで職員の防災意識の向上も図ります。

目標 3 **戦略 3** **防災体制を充実させる**

避難所等への備蓄や、町内医療機関での医薬品等の備蓄の拡充、播磨町災害時保健活動マニュアルを活用した保健活動の整備、ライフライン確保のための施策、避難所の地域での開所運営を進めるとともに、危機管理体制の充実・強化を進めます。また、避難所の環境整備を図るとともに、防災DXの視点から、システムの導入に取り組みます。

● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 播磨町地域防災計画
- 播磨町耐震改修促進計画
- 播磨町水防計画
- 播磨町国民保護計画
- 播磨町備蓄計画
- 播磨町国土強靱化地域計画
- 播磨町避難行動要支援者避難支援計画
- 播磨町業務継続計画

2 防犯対策の充実

○ ビジョン ○

犯罪のない安心して暮らせるまちづくり

地域住民一人ひとりの防犯意識を高めるとともに、地域と行政が犯罪防止のための環境整備を進め、安心して暮らせるまちをめざします。

みまもりパトロール隊



○ 前期計画期間中の取組 ○

加古川警察署や加古川地区防犯協会と連携し、犯罪抑制のために播磨支部防犯研修や安心安全まちづくり住民大会の開催、高齢者に向けた防犯に関する講話を実施しました。また、防犯灯や防犯カメラの設置、「子ども110番の家・店」の設置を推進するとともに、見守りカメラとタグによる見守りサービス、みまもりパトロール隊や防犯連絡所員によるパトロールを実施してきました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆子どもの登下校時に、犯罪に巻き込まれるケースが懸念される。
- ◆生活に密着した犯罪が増えていることから、警察だけでなく、行政も連携した対応が必要となっている。
- ◆地域における自主的な防犯活動への継続的な支援が求められている。



関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 **戦略 3** **犯罪発生をなくす**

加古川警察署や防犯協会等の関係団体と継続的に連携しながら、犯罪発生抑制を図ります。

目標 2 **戦略 3** **地域住民の防犯意識を向上させる**

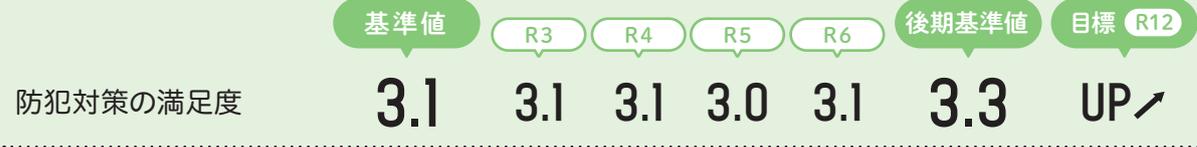
地域での犯罪の未然防止を目的として、令和6年度（2024年度）に設置した見守りカメラの運用や、地域と行政が共に防犯灯の維持及び防犯連絡所・「子ども110番の家・店」の設置等を推進していきます。

また、防犯に強いまちづくりを進めるため、様々な施策を通じて、地域住民が社会活動に参加することを促進していきます。



見守りカメラ

● 分野における住民満足度 ●



3 消費者安全の推進

ビジョン

消費生活を安全に行えるまちづくり

複雑化・多様化し増加傾向にある消費者問題に対応するため、消費生活センターにおいて相談窓口の充実を図ります。あわせて、被害を未然に防ぐため消費者教育を推進し、消費生活の安定と向上をめざします。

消費者セミナー



前期計画期間中の取組

消費生活センターによる相談受付や消費者協会と連携して啓発活動を実施し、高齢者の消費者被害や若者のネット通販・副業トラブル対策に取り組んできたほか、学校と連携し、小学5年生・中学2年生への講座や小学6年生・二十歳のつどいでの啓発グッズ配布を実施することで、消費者教育の推進に努めてきました。

現状の問題・課題

- ◆不特定多数に届く架空請求が横行している。
- ◆低年齢層のゲーム課金等のトラブルが増加しているため、子どもの頃から継続した消費者教育が必要である。
- ◆消費生活センターへの相談者は60歳以上が約半数を占めている。
- ◆インターネット通信販売のトラブルが増加している。



関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 **戦略 3** **消費生活相談や啓発を推進する**

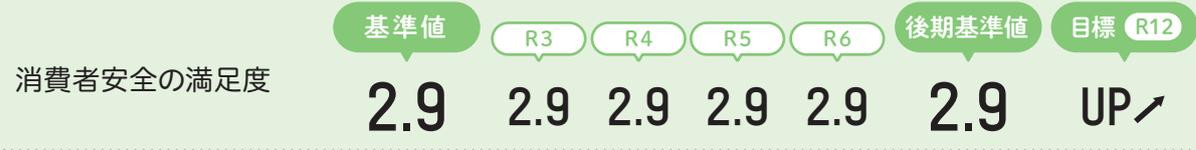
消費生活センターを中心に関係団体等とも連携し、過去の相談事例を踏まえた相談対応や啓発を推進します。

目標 2 **戦略 3** **あらゆる機会をとらえて消費者教育を推進する**

学校や関係団体と連携し、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした消費者教育に取り組みます。



● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 播磨町消費者教育推進計画

4 交通安全対策の充実

○ ビジョン ○

交通事故ゼロをめざし、
誰もが安全に
暮らせるまちづくり

交通安全運動



学校園、住民等に対する交通安全啓発を図るとともに、自転車等の安全運転や高齢者の運転免許証返納支援等の交通安全事業を推進し、交通事故のないまちをめざします。

○ 前期計画期間中の取組 ○

加古川警察署や交通安全協会と連携し、町内の保育園・幼稚園・こども園・小中学校での交通安全教室や高齢者向け講話の開催、交通安全運動期間中の啓発活動のほか、高齢者の運転免許証自主返納奨励金の交付を実施してきました。また、安全性の懸念があった播磨南小学校の通学路について、地権者の協力により工事を行い、使用を再開するほか、歩行者横断点減機を設置するなど、安全対策に取り組んできました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆子どもや高齢者などの交通弱者の交通事故防止が求められている。
- ◆高齢者の交通事故増に対応するため、高齢者の運転免許証返納や自転車通行の安全運転等を推進する必要がある。
- ◆道路や通学路の新設や住宅開発等によって生じる交通上必要な交通安全施設を引き続き整備する必要がある。
- ◆自転車に関する道路交通法の改正について、周知を行う必要がある。



関連する SDGs



基本目標

目標 1 戦略 3 交通事故を減らし、死亡者をゼロにする

加古川警察署や交通安全協会等の関係団体と継続的に連携を図り、高齢者の免許証返納の促進及び安全運転意識向上のための講話を実施します。また、学校とも連携し、交通安全運動、交通安全教室を実施することで交通安全の啓発を図ります。



交通安全指導員

分野における住民満足度

	基準値	R3	R4	R5	R6	後期基準値	目標 R12
交通安全対策の満足度	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	2.9	UP ↗

基本政策

2

身近な自然環境と快適な 住環境が調和したふるさと

方向性① うるおいのあるまちへ（都市基盤・住環境）

方向性② 活力のあるまちへ（産業・就業）

1 市街地の整備

ビジョン

安全で快適に 暮らせるまちづくり

住民との連携・協働による安全で快適な住環境の整備を進めるとともに、良好な市街地を形成するため、適正な土地利用を進めます。

浜幹線道路



前期計画期間中の取組

生活道路の利便性向上のため、住民との協働により狭あい道路整備を進めてきました。また、空家等の適正管理を推進し、県空家活用特区条例の指定を受けたことで補助制度の拡充や除却促進に取り組むほか、住宅の耐震化を促進し、耐震診断や改修補助の周知を進め、安全な居住環境づくりを推進してきました。さらに、土地の保全と地籍の明確化に向けて地籍調査を着実に実施するとともに、立地適正化計画の策定、都市計画マスタープランの見直し、JR土山駅北地区のまちづくりや市街化調整区域の土地利用の検討を行ってきました。

現状の問題・課題

- ◆住宅密集地区における狭あい道路の問題等、住民との連携・協働による地域の特性を活かしたまちづくりや土地利用が必要となっている。特に防災上の課題が相対的に大きい本荘・宮西・古宮地区の沿岸部については、対応が急がれる。
- ◆空家等の増加が社会的な問題となっており、適切な管理がされていない空家等については周辺環境に悪影響を及ぼす可能性がある。
- ◆南海トラフ地震等の発生が想定されている中、地震時における住民の安全を確保するため、住宅等の耐震化を進める必要がある。
- ◆JR土山駅北地区では、駅前らしい社会基盤と住環境の速やかな整備、まちなぎわいと活力の創出を図るため、住民と協働したまちづくり（再整備）の検討を引き続き進める必要がある。
- ◆播磨臨海地域道路の計画、営農者の高齢化と後継者不足等、市街化調整区域での開発圧力の高まりや低未利用地化の進行が予想されるため、計画的な土地利用に向けた検討を引き続き進める必要がある。
- ◆まちづくりの推進にあたっては、地域住民や利害関係者との意思疎通、合意形成等を図り、協働して取り組む必要がある。

関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 生活道路を整備し、日常生活の利便性を向上させる

住民と協働のもと住宅密集地区における狭あい道路の整備を推進するとともに、道路整備が不十分なエリアについては、地域での検討を促進する取組を実施します。

目標 2 まちの活力を維持するため、空家等の既存ストックを活用する

空家等の適正な管理について啓発し、流通を促進させることで、既存ストックの活用を図ります。

目標 3 安全で安心な居住環境の形成を図る

住宅の耐震化に関する啓発を行い、災害に強い地域づくりを進めます。

目標 4 計画的な土地利用を図る

町を取り巻く環境の変化を見据え、計画的な土地利用に向けた検討を進めます。

目標 5 土地の保全及び地籍の明確化を図る

土地の保全及び地籍の明確化を図るため、地籍調査を推進します。また、地籍調査の推進にあたり、他のまちづくり事業との連携も念頭において優先順位を検討します。

● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 播磨町都市計画マスタープラン
- 播磨町空家等対策計画
- 播磨町立地適正化計画
- 播磨町耐震改修促進計画
- 播磨町緑の基本計画

2 公共交通の維持・確保

○ ビジョン ○

地域公共交通を維持し、 誰もが安心して 外出できるまちづくり

地域公共交通（バス路線等）は、病院、買い物等の移動手段として欠かすことのできない交通手段であり、その利便性の向上と運行確保に努めます。また、誰もが安心して外出ができる移動手段の確保に向けた取組を進めます。

JR土山駅前



○ 前期計画期間中の取組 ○

地域公共交通の維持と利用促進をめざし、播磨町地域公共交通活性化協議会の設立や地域公共交通計画の策定、広報活動、時刻表の全戸配布、「かこバスミニ」平岡東南ルートの実行開始などに取り組みました。



○ 現状の問題・課題 ○

- ◆バス利用者減少による路線の休廃止が行われている。
- ◆高齢者や障がいのある人、子どもなど移動手段を持たない人への対応が必要である。
- ◆公共交通の利用が不便な地域の移動手段を検討する必要がある。
- ◆交通事業者を取り巻く事業継続上の課題への対応を図る必要がある。
- ◆持続可能な公共交通サービスとするため、利用を促進する必要がある。
- ◆広域的な公共交通ネットワークを維持するため、近隣市町との連携が求められる。

関連する SDGs



基本目標

目標 1 路線バスや鉄道等の公共交通の利用を促進する

地域公共交通を維持するために、播磨町地域公共交通計画に基づく様々な利用促進施策を行い、利用者の増加をめざします。



かこバスミニ



公共交通ブース（はりま春風フェス）

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町都市計画マスタープラン
- 播磨町地域公共交通計画

3 道路・交通ネットワークの 維持・整備

ビジョン

安全な交通を 確保したまちづくり

道路交通網の整備を進めるとともに、安全に通行できる道路の維持及び強靱化に努めます。

また、港湾施設の整備については、引き続き関係機関に要請を行います。

ゾーン 30 プラス



前期計画期間中の取組

道路舗装の適切な管理を維持するため、播磨町舗装長寿命化修繕計画に基づき計画的な修繕工事や新設改良を実施したほか、安全な道路環境の構築に向け、ゾーン30プラスの整備や自転車ネットワーク計画の策定を進めました。道路橋の安全確保に向けても播磨町橋梁長寿命化修繕計画に基づき計画的な補修工事を実施し、法定点検や日常点検を行ってきました。また、播磨臨海地域道路のルート計画案を踏まえ、都市計画道路の見直しを行いました。

現状の問題・課題

- ◆生活道路網の安全性の向上に努め、「災害に強いまちづくり」が必要となっている。
- ◆人や自転車が安全快適に通行できるよう、点検業務で異常個所を早期発見する必要がある。
- ◆町道を健全に維持するため、道路・橋梁の整備改修などを計画的に実施していく必要がある。
- ◆播磨臨海地域道路の整備に向けた取組が進められる中で、未整備の都市計画道路については、必要性や費用対効果等を検証のうえ、計画的な整備を検討する必要がある。
- ◆工業港である東播磨港は、播磨臨海地域道路が計画されるなど、取り巻く環境が大きく変化していることから、必要な整備等について関係機関に要請する必要がある。

関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 計画的な道路改良や整備を推進する

道路舗装において、適切な管理水準を維持し効果的な修繕に努めます。

目標 2 予防保全により道路橋の安全を確保する

老朽化が進む道路橋において、法定点検を確実に実施するとともに、計画的な修繕を行うことで安全性の確保を図ります。

目標 3 都市計画道路等の整備を検討する

今後のまちづくりの進展や播磨臨海地域道路の事業化スケジュールを踏まえ、費用対効果を考慮し、都市計画道路等の整備の優先順位を検討します。



微笑橋

● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 播磨町橋梁長寿命化修繕計画
- 播磨町舗装長寿命化修繕計画
- 播磨町国土強靱化地域計画

4 上・下水道の整備

ビジョン

ライフラインの 安定したまちづくり

安全かつ良質な水道水の安定的な供給に努めます。

また、下水道を整備し、清潔で快適な環境づくりを進めるとともに、雨水幹線の整備や雨水ポンプ場の適切な管理を行い治水対策を推進します。

浜田雨水ポンプ場



前期計画期間中の取組

老朽管の耐震化と施設整備の計画的な推進のため、デザインビルド方式の採用による基幹管路の更新や、下水道総合地震対策計画の策定を進めるとともに、水道施設更新基本計画や管路耐震化更新計画を策定し、上下水道の耐震化を推進してきました。また、持続可能な経営基盤の構築をめざし、経営戦略の改定や水道料金の改定を実施し、財源確保と計画的な管路更新に取り組んできました。さらに、雨水幹線の整備や浜田雨水ポンプ場の建設など、治水対策を強化してきました。

現状の問題・課題

- ◆創設期に整備した多くの水道施設の老朽化が進行していることから、適切な維持管理に努め、延命化を図る必要がある。
- ◆地震災害などに備えて上下水道施設の耐震化を推進するとともに、断水に備えて応急給水手段とトイレを確保する必要がある。
- ◆安定給水や経営の効率化を図るため、近隣市町との広域連携について積極的に取り組む必要がある。
- ◆上下水道に対する関心を高め、上下水道施設の重要性について周知を図る必要がある。
- ◆近年、台風や集中豪雨などが多発しており、浸水被害のリスクが高まっている。



関連する SDGs



基本目標

目標 1 老朽管の更新と管路の耐震化を計画的に行う

南海トラフ巨大地震などの災害に備えて、重要給水施設に接続している管路の耐震化を優先的にを行います。

目標 2 計画的な施設整備と事業の平準化を行う

施設整備の時期に大きな偏りがあることから、民間活力を利用するなど将来を見据えて計画的に事業を実施します。

目標 3 長期にわたり健全で安定的な経営に努める

老朽施設の更新費用が膨大なため、必要な財源確保を行い、長期を見据えた財政運営を行います。

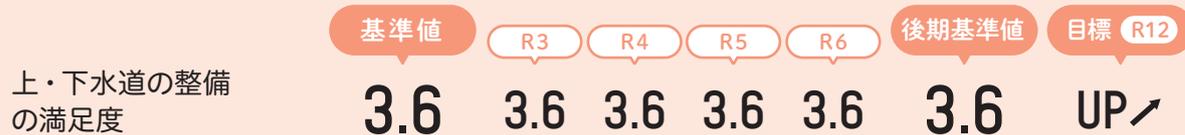
目標 4 下水道への理解を高める

下水道の役割や重要性について普及啓発を行うことで、下水道への関心を高め、水洗化の促進を図ります。

目標 5 下水道による治水対策を進める

雨水幹線の整備を進めるとともに、本荘雨水ポンプ場及び浜田雨水ポンプ場の適切な維持管理に努めます。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町水道事業ビジョン・経営戦略
- 播磨町下水道ストックマネジメント計画
- 播磨町水道施設更新基本計画
- 播磨町下水道長寿命化計画
(本荘雨水ポンプ場)
- 播磨町管路耐震化更新計画
- 播磨町下水道総合地震対策計画
- 播磨町水道事業水質検査計画
- 播磨町上下水道耐震化計画
- 播磨町下水道事業経営戦略
- 播磨町国土強靱化地域計画
- 播磨町流域関連公共下水道事業計画

5 バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進

○ ビジョン ○

誰もが安心して暮らせる バリアフリーのまちづくり

高齢者や障がいのある人、妊婦や子ども連れの人など、すべての人が移動に不自由なく、安全で快適に暮らせるまちづくりをめざし、公共施設や道路等のバリアフリー化を進めます。また、年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つ様々な個性や違いにかかわらず、誰もが利用しやすく暮らしやすいまちづくりをめざし、ユニバーサルデザインや「障害の社会モデル」の周知、一人ひとりが多様な人のことを思いやる「心のバリアフリー」の啓発に努めます。

兵庫ゆずりあい駐車場
(新東部コミュニティセンター)



○ 前期計画期間中の取組 ○

すべての人が安全で快適に暮らせるバリアフリーのまちづくりとして、「障害の社会モデル」の周知啓発やバリアフリー基本構想に基づく事業の進捗確認を行いました。また、高齢者や障がいのある人が安心して暮らせる住環境を整えるため、既存住宅のバリアフリー改造費助成を実施してきました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆既設の施設については、改修時に順次バリアフリー・ユニバーサルデザイン化に配慮する必要がある。
- ◆ユニバーサルデザインへの認識を深めるために、継続した周知啓発が必要である。
- ◆バリアフリーの心を育てるために、小中学校での学習を進めるなど、共生社会の形成に向けた意識づけが必要である。
- ◆既存住宅のバリアフリー化については、申請数は伸びていないため、事業の周知に力を入れる必要がある。



関連する SDGs



● 基本目標 ●

- 目標 1** **すべての人が安全で快適に暮らせるようバリアフリーのまちづくりを進める**

誰もが移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちをめざし、当事者の声も取り入れながらバリアフリー化を推進します。
- 目標 2** **高齢者や障がいのある人を含むすべての人が暮らしやすい住環境づくりを進める**

住み慣れた住宅で安心して自立した生活を送れるよう、住宅のバリアフリー化を引き続き進めます。
- 目標 3** **ユニバーサル社会の実現に向けた取組を推進する**

誰もが利用しやすく暮らしやすいまちづくりをめざし、ハード・ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進に努めます。また、誰にとっても見やすく、わかりやすい情報提供を行うことで、情報バリアフリー化を推進します。

● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 播磨町バリアフリー基本構想
- 播磨町障害者計画

6 公園緑地と水辺環境の保全

ビジョン

水と緑を活かした うるおいのあるまちづくり

公園・緑地、ため池など身近な自然環境を保全し、生活にうるおいと安らぎのあるまちづくりを進めます。

野添北公園（蓬生庵）



前期計画期間中の取組

公共空間の緑化と緑化意識の普及を推進するため、播磨町公園施設長寿命化計画に基づく施設更新や公園施設のリニューアル、公園でのイベント開催、県民緑税を活用した植樹や芝生化活動の支援、公共用地での住民主体の緑化活動を進めてきました。また、水辺空間の保全・活用のため、ため池の定期点検や管理者講習会の実施、ため池協議会の活動支援、ホテルの里での環境保全啓発、池周辺の設備改修などにも取り組んできました。

現状の問題・課題

- ◆公園・緑地やため池などの保全と適正な維持管理を行っているが、身近な水辺環境への理解を深める必要がある。
- ◆公園施設を安全に利用できるよう適切に更新する必要がある。
- ◆幅広い世代に環境保全意識を普及啓発する必要がある。
- ◆点在する公園施設のトイレの維持管理及び更新の検討が必要である。



関連する SDGs



基本目標

目標 1 緑に対する多様なニーズを踏まえ、公共空間の緑化や緑化意識の普及啓発を推進する

公園・緑地の適切な維持管理や、新たに建設する大池広場等を活用したイベント等を通じた緑のふれあいの確保を促進します。また、石ヶ池パークセンターを緑の拠点として、住民との協働により緑の普及啓発を行います。

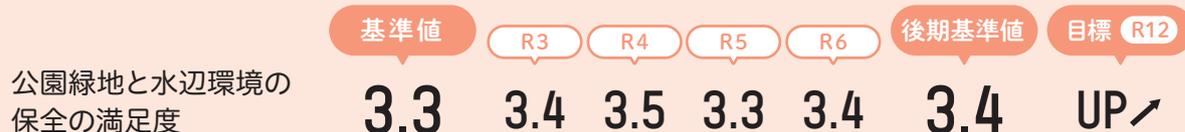
目標 2 快適な公園機能を保持する

公園の整備・維持管理を行い、インクルーシブ遊具や健康遊具の設置を進めるとともに、防災機能の強化も推進します。

目標 3 水辺空間の保全や活用を図る

治水施設としてのため池の保全管理に加え、ため池協議会が実施するため池を活用したイベントを引き続き支援します。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町緑の基本計画
- 播磨町公園施設長寿命化計画
- 播磨町環境基本計画

7 生活環境の向上

ビジョン

生活環境を 良好に保つまちづくり

自然環境保全意識の普及啓発に努めるとともに、住民・事業者・行政が環境に対する責任と役割を理解することで、脱炭素社会、自然共生社会をめざします。

役場の充電ステーションと
電気自動車（公用車）



前期計画期間中の取組

地球温暖化防止対策として、住宅用太陽光発電・蓄電池システム設置費の補助、電気自動車充電設備の整備、クーリングシェルターの指定開始などに取り組むとともに、生活環境の保全を目的に、自治会が行うクリーンキャンペーンの支援や不法投棄監視カメラの貸し出しを進めてきました。また、子ども向け環境学習として、夏休みおもしろ教室や環境学習バスツアー、住民との協働によるアカミミガメやナガエツルノゲイトウの駆除活動を実施し、環境意識の向上を図ってきました。

現状の問題・課題

- ◆ごみのポイ捨て・犬のフンの放置・騒音問題など、日常生活に起因する環境問題が依然として多く、住民一人ひとりの意識の向上が一層必要となっている。
- ◆事業系廃棄物の不法投棄に対する監視・指導体制の拡充・強化が必要となっている。
- ◆不適切なごみ出しが増加しており、ごみの出し方に関して改めて周知啓発が必要となっている。
- ◆外来動植物の流入により、在来動植物への影響や農作物への被害が発生している。
- ◆地球温暖化による自然環境や生活への影響が深刻化する中、住民一人ひとりが生活スタイルの見直しや自然環境保全などに継続的に取り組むことが求められている。
- ◆カーボンニュートラルへの取組をより推進する必要がある。

関連する SDGs



● 基本目標 ●

目標 1 **戦略 1** **地球温暖化防止対策を推進する**

住民や事業者のクリーンエネルギー利用を積極的に支援し、環境への負荷が少ない脱炭素社会への転換を図ります。

目標 2 **生活環境の改善に係る活動を推進する**

環境問題についての啓発を行い、住民一人ひとりの環境意識の向上、生活環境の保全及び公衆衛生の向上をめざします。

目標 3 **子ども向けの環境学習機会を確保する**

人と環境との関わりについて理解を深め、責任ある行動がとれる人づくりを推進します。



● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 播磨町環境基本計画
- 播磨町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
- 播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

8 ごみの減量・ リサイクル活動の推進

○ ビジョン ○

環境への負荷が少ない 資源循環型のまちづくり

可燃ごみ中継センター



限られた資源の有効活用と環境負荷の軽減を図り、資源循環型社会の構築をめざします。

○ 前期計画期間中の取組 ○

播磨町可燃ごみ中継センターや、加古川市、高砂市、稲美町及び播磨町の2市2町での広域ごみ処理施設「エコクリーンピアはりま」の運営開始によるごみ処理機能の拡充、災害廃棄物処理計画の策定を行ったほか、ごみ分別の徹底や食品ロス削減に向けたフードドライブへの広報協力、「手前どり」啓発POPの提供などを行ってきました。また、資源の有効利用を促進するため、資源回収団体への助成金交付を行い、古紙等のリサイクル率向上に取り組んできました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆紙や布、ビンや缶などの資源ごみが可燃ごみや不燃ごみとして排出されていることがあり、資源化できていないものがある。
- ◆ごみの資源化・減量化を推進するために、ごみの分別について周知啓発を図る必要がある。
- ◆子ども会の解散や各種団体の活動縮小に伴い、資源回収に取り組む団体が減少している。

関連するSDGs



基本目標

目標1 ごみの減量化を推進する

ごみの減量に向けた情報発信を行うとともに、食品ロス削減等の取組を通して可燃ごみの減量化を図り、環境負荷の軽減をめざします。

目標2 古紙等のリサイクル率の向上を図る

資源回収を促進させることで資源の有効利用を図り、循環型社会の形成に努めます。

分野における住民満足度



関連計画

- 播磨町環境基本計画
- 東播臨海広域市町圏における循環型社会形成推進地域計画
- 播磨町分別収集計画
- 播磨町災害廃棄物処理計画
- 加古郡圏域一般廃棄物処理基本計画
- 播磨町一般廃棄物処理実施計画

1 農漁業の振興

○ ビジョン ○

地域の農水産を 維持するまちづくり

自然空間の保全や緑地等として農地を守り、農業の維持に努めるとともに、漁業においては、地場産物の流通拡大に向けて支援を行います。

漁礁づくり（タコつぼの投入）



○ 前期計画期間中の取組 ○

農業・漁業従事者の支援と経営安定化を図るため、漁業施設整備費の補助、新規就農者や新規組合員への就業支援、景観作物助成金の交付、学校給食での地産地消の推進などに取り組むとともに、ふるさと納税の返礼品として農産物や遊漁船の乗船を登録し、販路拡大にも努めてきました。

○ 現状の問題・課題 ○

- ◆収穫や漁獲によって収入が変動するため、経営の安定化が図りにくい。
- ◆従事者の高齢化と後継者不足が進んでいる。
- ◆農水産物の地産地消を拡大するための量の確保が困難である。

関連する SDGs



基本目標

目標 1 戦略 1 農業・漁業従事者を支援する

農業・漁業従事者を支援し、経営の安定化を図るとともに、新規就業者や指導者への支援施策を検討します。

目標 2 戦略 1 地産地消を推進する

地元農水産物の朝市販売や学校給食への提供を行い、地産地消を推進します。

目標 3 戦略 1 魅力ある産品を充実させ、販路の拡大を図る

地元農水産物をふるさと納税の返礼品とすることで販路を拡大し、農漁業の活性化につなげます。

播磨町漁業協同組合を支援し、水産加工業の充実を図ります。



分野における住民満足度



関連計画

- 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
- 阿閑漁港海岸長寿命化計画
- 地域計画
- 古宮漁港海岸長寿命化計画
- 機能保全計画 阿閑漁港(第1種)
- 播磨町アライグマ防除実施計画、播磨町ヌートリア防除実施計画
- 機能保全計画 古宮漁港(第1種)

2 商工業の振興

ビジョン

地元産業の活性化を 図るまちづくり

商工会との連携により、地域の事業者の支援に努めるとともに、工業においては優遇措置や規制緩和等により工場の誘致や町外への流出を防ぎ、地元産業の活性化を図ります。また、土山駅周辺の再開発や、地域ブランドの構築、イルミネーションを活用したにぎわい創出などを通じて、経済がまちの成長を牽引する「都市経営」の視点から取り組みます。



朝市

前期計画期間中の取組

地元産業の活性化を推進するため、播磨町商工会を支援し、四者連携協定を活用した朝市の開催、空き店舗活用補助金の拡充、住宅リフォームの助成、ふるさと納税制度による地場産品の販路拡大を行ったほか、企業立地促進奨励金の交付、工業地域の緑地面積率の緩和、合同企業就職面接会の開催などに取り組んできました。

現状の問題・課題

- ◆ふるさと納税返礼品のさらなる開拓と、制度を通じた商工の活性化を図る必要がある。
- ◆播磨町商工会では推奨品認定を行っているが、販売促進が必要となっている。
- ◆兵庫南農業協同組合、播磨町漁業協同組合、播磨町商工会、播磨町が連携し、朝市開催など、事業実施に一定の成果はみられるが、さらなる連携が求められている。
- ◆企業誘致策として工場立地法の緑化面積率等を緩和して工場の敷地を有効活用しているが、今後はまとまった遊休地が少なく、大規模な誘致が困難となっている。
- ◆播磨町商工会と連携し創業支援を行っているが、新規創業者への周知が必要である。
- ◆勤労者の福利厚生充実のため、町が出資している「あいわーくかこがわ」や「播磨町労働者福祉協議会」への加入促進が必要である。
- ◆地元企業における人材確保が課題となっている。

関連するSDGs



● 基本目標 ●

目標 1 **戦略 1** **地域産業の活性化を図る**

播磨町商工会を支援し、四者連携協定を活用することで地元産業の活性化を推進します。

目標 2 **戦略 1** **中小企業を支援する**

中小企業支援、創業支援を積極的に展開し、商工業の振興につなげます。

目標 3 **戦略 1** **商工業の振興を図る**

ふるさと納税を通して地場製品の販路拡大に取り組みます。

目標 4 **戦略 1** **就労の促進を図る**

合同企業就職説明会や奨学金返済支援制度、労働者福祉協議会への支援により、町内事業所への就労を促進します。



合同企業就職面接会・説明会

● 分野における住民満足度 ●



● 関連計画 ●

- 地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく基本計画
- 播磨町導入促進基本計画
- 播磨町創業支援等事業計画

